

景況調査

(平成28年4月～6月期)

平成28年4月～6月期の山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

平成28年4月～6月期の調査結果では、売上高、業況、採算の主要3指標で前回調査より数値が低下した。

〈業況〉

業況DIは▲21.9で前回調査の▲11.9から10ポイント低下した。業種別では、小売業▲17.6(前回調査比▲3.3)、製造業▲25.0(前回調査比+5.8)、建設業▲18.2(前回調査比▲34.9)、サービス業▲27.8(前回調査比▲14.5)、卸売業▲16.7(前回調査比+3.3)と製造業、卸売業が上昇した。
7月～9月期見通しは全体で▲23.4であり、見通しは明るくない。

〈売上高〉

売上高DIは▲18.5で前回調査より12ポイント低下した。業種別では、小売業±0.0(前回調査比+6.7)、製造業7.7(前回調査比+15.4)、建設業▲20.0(前回調査比▲11.7)、サービス業▲50.0(前回調査比▲38.2)、卸売業▲33.3(前回調査比▲53.3)であり、小売業、製造業の上昇とそれ以外の業種の低下という構図になった。
7月～9月期見通しは全体で▲26.2となっており、減少の見込みである。

〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは▲24.6で前回調査より9.3ポイント低下した。業種別では、小売業▲27.8(前回調査比▲14.5)、製造業▲8.3(前回調査比+22.5)、建設業▲18.2(前回調査比▲18.2)、サービス業▲33.3(前回調査比▲26.6)、卸売業▲33.3(前

回調査比+6.7)で製造業と卸売業が上昇している。
7月～9月期見通しは全体で▲26.2であり、今回調査実績から低下している。

〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲5.2で前回調査より2.2ポイント上昇した。業種別では小売業▲6.3(前回調査比+7.0)、製造業±0.0(前回調査比+11.1)、建設業±0.0(前回調査比+8.3)、サービス業▲13.3(前回調査比▲13.3)、卸売業±0.0(前回調査比±0.0)であった。
7月～9月期見通しは全体で▲23.5であり、今回調査実績から低下している。

〈その他の意見〉

円高で価格が低下し売り上げ、利益金額の低下をまねいている。
仕事量が少ない。近畿地区は特に悪いと噂されている。
若い世代の老後不安(年金など)を解消し安心して消費にお金が遣えるような経済改革が必要。

